

中央図書館は 耐震補強等改修工事のため休館します

中央図書館・田無公民館は築45年が経過しており、耐震性の不足及び施設の劣化が見られます。このことから安全性の確保と利便性の向上に向けて、耐震補強等改修工事を実施します。工事に伴い令和3年4月1日から一年間の予定で休館します。

改修計画概要は以下の通りです

- 1 利用者の安全確保…構造躯体の耐震補強、エレベーターの補強 等
- 2 省エネルギー型設備機器への更新…空調設備の更新、トイレ・給排水設備等の更新、照明設備のLED化
- 3 その他劣化箇所の修繕・更新
- 4 利便性の向上…地域・行政資料室機能の更新、図書館駐輪場の改修 等

中央図書館をご利用のみなさんへ

- 令和3年3月31日までは通常通り利用できますが、4月1日以後は中央図書館以外の5館をご利用ください。
- 中央図書館所蔵の資料は、4月1日以後、貸出も予約もできなくなります。資料の一部は、市内の他の図書館で利用可能です。
- 受取場所を中央図書館に指定している予約は、4月1日以後、市内の別の図書館での提供になります（詳細は別途お知らせします）。
- 地域・行政資料室の機能は芝久保図書館に移行します。
- 5月1日に、イングビル3階に臨時窓口を開設します。ここでは、予約資料の受け渡し、返却、予約の受付、利用カードの発行等のサービスを実施します。詳細については図書館ホームページや館内ポスターなどでお知らせします。
- 4月1日から4月30日までは、中央図書館入口のブックポストをご利用いただけます。

休館中ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますよう、よろしく申し上げます。

「図書館ホームページに関するアンケート」ご協力ありがとうございました!

令和2年12月16日(水)から26日(土)まで、図書館ホームページにて「図書館ホームページに関するアンケート」を実施しました。ご回答いただいたみなさま、ありがとうございました。

詳しいアンケート結果は図書館ホームページで公開しています。

回答数 99件
アンケート対象者
図書館ホームページ
を利用されている方

Q1. 図書館ホームページでよく見る・使うコンテンツ(ページ)を教えてください。

トップ5!!

1位	利用者メニュー	97
2位	図書館利用案内	41
3位	お知らせ	20
4位	図書館だより・図書館発行物	11
5位	図書館員の本棚	10

※選択肢25のうち。

Q2. 図書館ホームページで見つけづらいこと・解決しなかったことはありますか?

本を探すときに絞り込みや並び替えがうまくできないことや、操作手順が多くてわかりづらい・煩わしいなどのご意見を多くいただきました。

Q3. 利用者メニューの「お気に入り登録」機能を利用していますか?

利用している	70
機能は知っているが、利用していない	22
機能を知らない	7

Q4. 図書館ホームページにあったらいいと思われるコンテンツ(ページ)や、ご意見などがあれば教えてください。

「ジャンル別の本の紹介がもっと欲しい」「お気に入り機能は、フォルダごとに本を分けたい」など、他にもさまざまなご意見をいただきました。

図書館ホームページは、リニューアルしてから1年が経ちました。いただいたご意見を分析し、みなさまのお役に立つ情報をお届けすることを目指して様々なコンテンツをご提供していきます。

ハンディキャップサービスのご案内を設置しました!

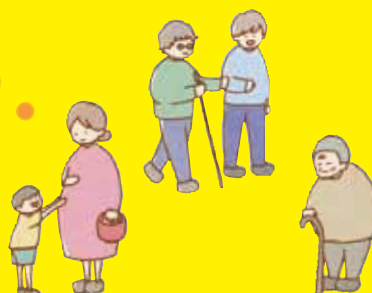
令和2年12月より西東京市図書館全館にご案内を設置しました。

「声の広報」やデジ書、宅配サービスなどの様々なサービスや貸出資料などについて、イラストや写真と一緒に、大きな文字でわかりやすく書いています。

活字を読むことが困難な方向けに点字も併記していますので、ぜひお手に取ってご覧ください。

市内にお住まいで、ハンディキャップサービスに興味のある方、ご希望の方はお近くの図書館へご相談ください。

ハンディキャップサービスとは、図書館利用に障がいのある方へのサービスです。



感染症対策をしながら

「いろいろなことばでたのしむおはなし会」実施しています！

図書館にはいろいろな国の言葉で書かれた絵本があります。絵本の面白さをより深く知ってもらうために、書かれている国の言葉で聞くおはなし会を実施しています。

令和2年11月は田無公民館の保育室で親子を対象として、日本語と中国語、英語、韓国語でおはなし会を行いました。日本語と外国語の絵本のよみかかせの他、手遊び、外国語の挨拶の紹介やクイズ等をして、楽しんでいただきました。

このおはなし会は今後も実施する予定です。ご興味のある方はぜひご参加ください。



花束のような感覚で本の束を… 「本束」ほんたば 企画実施中です



感染症拡大防止の観点から、今現在図書館は滞在時間の制限をしています。ゆっくりと本棚を眺めて本を選ぶことが難しい中でも、図書館利用者が新しい本と出会い自宅で楽しめるように、「本束」ほんたば 企画を実施しています。

麻ひもで束ねられた3冊の本にはテーマカードがついています。意外な取り合わせや出会いがあるように工夫しました。基本的に一つのテーマを使うのは一度きり。借りた人が記念にテーマカードをお手元に残せるようにしました。

当初こちらが予想していたよりも早いペースでなくなっている「本束」。テーマカードを手にとって眺めたり本のタイトルをメモされたりと、借りないけれど本との出会いを楽しまれている様子も見受けられ、コロナ禍のなかの嬉しい一コマです。

「本束」は令和3年3月末まで実施予定です。



テーマごとの本のリストをご確認いただけます。

にんにん西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第30回 「西東京市のむかしばなし」

西東京市に古くから語り伝えられているお話しの一部を紹介いたします。これらは、合併以前に市内の旧家を訪ねて採話されたり郷土史研究会で報告され、合併記念誌『西東京市むかしばなし』（西東京市中央図書館編集）などに収められています。

お坊さんと「たなし村」（石神井川沿いのお話し）

昔、ある高僧が、あぜ道を散歩していました。石神井川のほとりで、お坊さんは何をみつけたのか、ひよいとかがもうとしたところ、稲穂で目を突いてしまいました。「痛い！こんなものがあるから目を突くんぞ」とカンカンに怒ったお坊さんは、村中の田んぼをみんななくさせてしまいました。それから村の名も『田無』となったといえます。

かけこみ地蔵（保谷町5丁目〈字西浦〉「西浦地蔵尊」のお話し）

青梅街道の宿場町だった頃、店では年季奉公に出された娘たちが朝から晩まで働かされました。ある娘が北風の強い晩に店を逃げ出し、真つ暗な道を駆け出しました。石につまづき転び「いたい！」と言ったその声を聞いた店の主人が追いかけてきます。全力で走り続けた娘が三ツ辻（保谷町5丁目あたり）に

来た時、一人のお坊さんが「私の後ろにいなさい」と衣の袖で隠し、杖を横にして主人を通しません。杖にさわった主人はその冷たさとお坊さんの輝く目に恐れをなして逃げ去り、娘は助かりました。それからは、北向き地蔵として地元の人々に愛されています。

耳を直す神さま（東町2丁目〈字南松ノ木〉「帝釈天庚申塔」のお話し）

昔、昔、いつも朝早くから夜遅くまで畑で働くおばあさんがいました。寄る年波に勝てず耳が聞こえなくなり、村人が声を掛けても知らん顔、トンチンカンババーと名がつくほどです。「庚申さまは耳を直す神さまだといふけれど、ちつとも、おらの耳は聞こえんよー」と言いながら庚申さまに花を供えます。暑い日は冷たい井戸水を柄杓にかけて庚申さまを冷やします。ある日、その柄杓の底が抜けてしまい買って来ようとした時に村人が通りかかり、「トンチンカンババー、今日も暑

いのにようやるなー」と声をかけると、おばあさんは「トンチンカンババーとはオレのことかあー」と答えました。耳が聞こえるようになったおばあさんは、庚申さまが直してくれたと大喜び、深く頭を下げ手を合わせて涙を流しました。この話が評判となり耳病に効果があると信仰され、底を抜いた柄杓を奉納するようになりました。庚申様は福泉寺に移住されました。

トウカメの稲荷さん（芝久保町5丁目〈小字十日面〉のお稲荷さんのお話し）

明治39年、芝久保のトウカメ稲荷さんは田無神社に移されたことがありました。ある夜おばあさんの夢から「お稲荷さんは元の場所に戻りたがっている」という話が広がりまし。昭和12か13年頃、近くの工場で火事があり、火事場から小さな灯が次々と逃げていくのを見て「キツネさんの提灯だ」「トウカメ稲荷さんだ」という声があがりました。そして、この火事もお稲荷さんのたたりということになり、芝久保5丁目に再建されました。

参考文献『田無のむかし話1・4』田無市編 『田無宿風土記3』下田富宅編 『保谷市郷土史研究会々報けやき5・6』



『年賀状展開催記念田無のむかし話はがき』（昭和52年11月）

令和元年度図書館事業評価の概要

図書館協議会による評価への主なコメントは次のとおりです。*全文は図書館ホームページでご覧いただけます。

- 多様な人たちへのサービスはその人たちから求められていることを正確に把握することが大切です。今後も幅広く意見を聞きながら、多様な資料収集が行われていくことを期待します。図書館が行うイベントは、図書館が伝えたいことと市民の知りたいことがかみあうよう、タイトルから意識して企画する必要があると思います。デジタルアーカイブの公開はアクセス数からも関心の高さが伺えます。今後も利用者に活用してもらえような広報活動に力を入れていただきたい。
- 図書館の乳幼児・児童、YA世代へのサービスは「子ども読書活動推進計画」と連動させながら、地域の子ども読書環境に対する目配りが大切になります。子どもに手を差し伸べる活動を地域・家庭文庫、子どもの文化に関わる団体などと連携・協力して進めるように期待します。

図書館協議会から答申をいただきました。

令和元年度に諮問した「西東京市図書館の開館時間の拡大について」の答申をいただきました。

①西東京市中央図書館の開館時間の拡大について

②芝久保・谷戸図書館の開館日の拡大について

を諮問し、計8回の例会と臨時会で検討していただきました。答申の内容は以下のとおりです。

- 1 中央図書館の開館時間を午前10時から午前9時にすることについては、図書館職員・専門員の増員や勤務時間の変更を行い、取り組んでいただきたい。
- 2 中央図書館の土・日曜日、祝日の閉館時間を午後6時から午後8時にすることについては、他自治体の状況調査も踏まえ、効果は低いものと考えられる。
- 3 芝久保・谷戸図書館の祝日開館については、市民サービスの向上にはなるが、現状の職員体制では困難である。解決しなければならない課題を克服した上で拡大すべきと考える。

図書館員の本棚

「わすれられないおくりもの」

スーザン・バーレイ／さく え 小川仁央／やく
評論社

ISBN:9784566002647



冬の始め、年取ったアナグマが森の友人達に手紙を残して亡くなります。

アナグマを敬愛していた動物達はとても悲しみます。雪が溶け春になると皆、互いに行き来し、アナグマに教わった思い出を語りあいます。アナグマはいなくなってしまうけど、知恵や思い出というわすれられないおくりものを各々残してくれたことに気づき、それがどんなに豊かで大切なものかを知ります。そして悲しみはいつしか感謝の気持ちに変わってゆくのです。

前半は死を静かに受け入れてゆくアナグマの様子を追い、後半は森の動物達がアナグマの死を受け入れていく様子を描いています。去っていく者と残された者、生と死という難しいテーマが優しく温かい柔らかい文と色彩で描かれた絵本。小学三年生の教科書に載っている児童書ではありますが、年を取り、独りよがりの態度になってしまいがちな終活世代、シニア世代の書架にぜひそっと置いておきたい一冊。

(シニア世代の図書館員Mおすすめ)



小魚とホオポノポノ 柳沢小学校4年

利用者エッセイ

わたしと図書館

鶴丸のどか

さわさわさわと風が緑を揺らしている。

夢の中の図書館はいつも今は無き下保谷図書館である。さわさわさわと屋敷林の木々が揺れ、まだ門扉のない高橋家の入り口の道がぼっかりと口を開けている。どろんこハリーの絵がついた貸出カードをポケットの上から確かめ、古い自動ドアをくぐるとひんやりとした空気が私を包んだ。静かで少し冷たくてまるで水の中に入ったようである。

入って右手の貸出カウンターには今誰もいない。私はカウンターを背にして児童書の棚の通路に入っていく。斉藤洋、柏葉幸子、角野栄子、工藤直子、寺村輝夫、ここで出会ったお気に入りの作家の棚を確かめ、それからさらに通路を進み、突き当たりの『神話』の棚でギリシャ神話の本を探す。児童館の庭に面し

たそばのドアから風に乗って小さく子どもの笑い声が聞こえてくる。時折、入り口近くの新聞コーナーから、新聞をめくる乾いた音がする。

奥のトイレや二階の児童館へ続く階段はほの暗く、トイレの消毒薬の臭いが病院を思い出させるので嫌いだったが、トイレの前にある索引カードの引出しを見るのが宝探しのようで好きだった。

下保谷図書館が取り壊され、児童センターと福祉会館が新しくなり図書館が駅前に移ると聞いた時、もうあの緑に囲まれた静けさの中で本を読めなくなるのだと一人寂しく思った。下保谷図書館がなくなってもう12年が経つけれど、夢に見るのはいつも下保谷図書館である。

あの屋敷林の木漏れ日と児童館の庭からのざわめき、出会った愛すべき物語たち。

私が本を好きになったのは、あの図書館の静けさのおかげだったと思う。